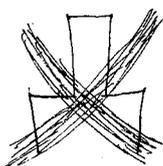


草の根ニュース No.1

2012・5・1



大きな
焼却炉は
もういらない!

町田市政を考える会・草の根

連絡先 042-797-3604 (小林)

運転開始から30年 町田市の焼却炉は 老朽化が進んでいます
際限なくごみを出し燃やし続ける時代から、CO2削減・効率・経費の
面を総合的に考慮した、新たな資源化施設建設の必要性が求められ
ています

**2011年4月、町田市は、43万市民と行政との協働で、
ごみになるものを「作らない・燃やさない・埋め立てない」を目標に
ごみを減らす計画をつきました**

**ごみの減量・資源化の努力し続けることこそが、環境にやさしい町を
つくること…**

草の根は そんな町をつくりたいと思います

*はじめに

町田市の諮問を受け、2009年6月から2011年3月にかけて『廃棄物減量等推進審議会』（会長 細見正明氏）が開かれ10年後の町田市のごみ処理のあり方について答申を出した。答申の基本理念は「町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則とし、徹底したごみの減量・資源化を図りつつ持続可能で環境負荷の少ない都市を目指すこととしている。具体的には、2009年度ごみとして処理している9万9千tを2020年までに6万tに減らす計画で、ごみとして処理する量の40%を削減することになる。また、現状の資源化率27%を54%に進めることとなる

この答申をうけ、市は2011年4月『町田市一般廃棄物資源化基本計画』（以下資源化基本計画）を策定した。そして、資源化基本計画をもとに2011年5月、『町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会』（委員長 細見正明氏）が発足。2020年度に新たな焼却施設、資源化施設を稼動することを目指した施設建設の内容と建設候補地の検討が始まっている。また、資源化施設建設にあたっては初めて「分散化」が提案された

*** 町田市の年間のごみは 13万 1000トン!**

ビン・缶・ペットボトル・古紙・古布と、

不燃・粗大のごみを破砕した時に集めた金属類、

焼却した後に回収される金属類等は資源化し、

9万9000トン焼却しています (2009年度の実績より)

*** 資源化基本計画では…**

焼却ごみ 9万9000トンの中から

生ごみの全量資源化とプラスチックの資源化を行い

10年後には焼却ごみを、年間 6万トンにするという

計画です

達成されると、**40%のごみの削減になります!**

《生ごみの全量資源化はどうやって実現するの?》

資源化基本計画では、生ごみの発生見込み量を2万2000トンと

しています。3000トンは家庭用生ごみ処理機・容器や大型生ごみ

処理機で処理し、肥料化する。肥料化に取り組めない残りの

1万9000トンはバイオガス化(メタン化施設)により資源化する

《プラスチックの資源化はどうするの?》

発生見込み量は10000トン。汚れたものを除き、6000トンは

容器包装リサイクル法の資源化ルートにのせて資源化する

町田市資源循環型施設整備

基本計画検討委員会(以下検討委員会)は、

資源化基本計画に基づき、熱回収施設(ごみ焼却施設)と生ごみ資源化施設、資源ごみ処理施設の内容と、建設候補地を決定する検討を始めています

○施設建設にあたっては…

今回の検討委員会で初めて、熱回収施設(ごみ焼却施設)とは別の場所に 資源ごみ処理施設を分散化することが提案されました！！

・熱回収施設(ごみ焼却施設)と、不燃・粗大破碎施設、生ごみ資源化施設(バイオガス化施設)を、一箇所に建設する

・ビン・カン・ペットボトル・乾電池の資源化施設や

容器包装プラスチックなどの資源ごみ処理施設は、熱回収施設(ごみ焼却施設)とは別の場所に建設する

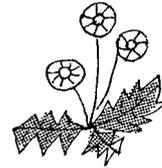
※どのように分散化するのかについては検討中

○建設候補地の決定については…

まずは町田市全域を対象に一次選定で法的に建設できない地域を対象から外し、二次選定で施設の建設に必要な条件・効率性を整理し候補地を絞り、どのような条件が必要なのか提案しました。(七つのエリアを発表)

そして、第三次選定に向けて、どのような視点で評価していくのかという評価項目案を提案しました

※候補地となった地域を項目ごとに比較評価(点数付け)し、最終的に候補地として決定していく方法で、進めています



* 2月16日から3月11日の間、これまでの検討内容について広く市民の意見を聞くための意見交換会が市内7箇所で開催されました

草の根は全ての会場に参加し、どのような意見が出たのか、草の根レポート①から

⑥にまとめました。(ホームページに掲載) 最終回に寄せて・・・を一部抜粋し、掲載します

* 今回の検討委員会によって、町田市では初めて一極集中だった処理施設・資源化施設の分散化が提案されたことは本当に意義深い。ただ残念なことだが「自分の所だけはやめてくれ」と言う市民がいることも事実。『分散化』とは「自分たちが出しているごみだから、責任をもとう」「どこかを、何かを担おう」とする市民の姿勢そのものだ。こうした市民の姿なしにごみ問題は解決しない

* これまでの経緯を時系列に並べ、問題点、解決策、現状、将来像を市民にしっかり説明する必要性を強く感じた。危険なものか有るのか無いのか、我慢しなければならないような悪臭・騒音・化学物質が有るのか無いのか・受け入れた地域にとってのメリット・デメリット等なども含め、確かな情報を的確なタイミングで提示しなければ、判断は難しいのではないと思う

* 今回の意見交換会の参加人数の少なさは、関心の薄さが原因ではあると思うが、多くは語らずとも、きちんと分別する協力的な市民が育っていることも事実だ。突出した少数の意見と共に、検討委員会委員の方々には物言わぬ多くの市民の存在も忘れない様にして欲しいものだ

* 資源化の意味合いも、ここ数年で目まぐるしく変わり、常に環境問題とセットで考えなければならなくなっている。毎日毎日排出され続けるごみ。将来を見通したより有効な施策を期待してやまない

町田市政を考える会・草の根とは

「町田市政を考える会・草の根」は、市民、行政、市議会への情報発信の「交差点」です。市民の市政への関心を深め、市議会の活力を高め、責任ある市民、信頼できる市政を、草の根のように大地にしっかり根付かせ、全ての面での「先進都市 町田」を目指します

※詳しくは、草の根ホームページをご覧ください

<http://www.machida-kusanone.com/index.htm>

